

●入架図書紹介

図 書 名	著 者	出 版
地 方 自 治		
逐条 地方自治法 新版 第9次改訂版	松本 英昭	学陽書房
ま ち づ くり		
みなかみイノベーション 群馬県みなかみ町に見る 農泊を核とした観光まちづくり	鈴木 誠二	あさ出版
まちづくりと法	阿部 泰隆	信山社
教 育		
小学校では学べない 一生役立つ読書術	齋藤 孝	KADOKAWA
学校における 安全教育・危機管理ガイド	大阪教育大学附属 池田小学校	東洋館出版社
障害のある子を支える 児童発達支援等実践事例集	一般社団法人全国児童発達支援協議会(編)	中央法規
そ の 他		
健康格差 あなたの寿命は社会が決める	NHKスペシャル取材班	講談社
市民政治の育て方 新潟が吹かせたデモクラシーの風	佐々木 寛	大月書店
登録有形文化財 保存と活用からみえる新たな地域のすがた	佐滝 剛弘	勁草書房
老後不安社会からの転換	岡崎 祐司(編) 福祉国家構想研究会(編)	大月書店

日本の風習

最近、雪が降ったり、ちょっと寒すぎませんか？インフルエンザも流行していますので、みなさん、手洗いうがいをしましょう！！

さて、2月といえば「節分」です！私が子供のころは、父が鬼の面を被り、鬼に向かって豆をまき、歳の数だけ豆を食べた思い出があります。

節分の豆は、炒った大豆が一般的ですが、落花生や餅などを使用するところもあるそうです。また、その豆を枡に入れ、神棚に供えてからまく地方もあるそうです。炒った豆を使用するのは、旧年の厄災を負って払い捨てられるものという意味があります。

豆まきの掛け声は「鬼は外、福は内」というのが多いと思いますが、地域や神社などによって、さまざまです。例えば、鬼を祭神または神の使いとしている神社・寺社、「鬼」が付く地名の地域では「鬼も内（鬼は内）」と言うそうです。

また、和歌山の風習のなかに、「神棚に供えた炒り豆の残りを、初雷鳴のときにいただくと雷に打たれない」とも言われています。

節分には、さまざま風習があつて、おもしろいですね。私は、大人になってから節分らしいことをしなくなりましたが、今年は、友達の子供と一緒に鬼の面を被ったり、豆まきをしたり、節分を楽しみました。



<参考図書>

『日本の民俗 和歌山』 『日本大百科全書』
『食べものの習俗 日本人の生活と文化』



「節分」とは？！

「季節の変わり目」のことをいい、1年に4回あるのはご存知ですか？「立春・立夏・立秋・立冬」の前日で、季節の終わりの日のことをいいます。なかでも「立春」の前日は、1年の終わりで重要とされていたため、2月の節分だけが風習として残っているそうです。